

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和5年3月30日

報告番号 乙	第367号	氏名	織田 良正
審査員	主査(自署) 江村 正		
	副査(自署) 安西 麟三		
	副査(自署) 原 めぐみ		
論文題名	<p>題名 Effects of Caregiver's Gender or Distance Between Caregiver and Patient's Home on Home Discharge from Hospital in 285 Patients Aged ≥ 75 Years in Japan 雑誌名、巻(号のみの雑誌は号)、頁一頁、発行西暦年 Medical Science Monitor, 29: e939202, 2023</p>		
論文審査結果の要旨	<p>本論文は、75歳以上の入院患者のうち、別の医療機関への転院や介護療養施設への入所を経ずに直接自宅へ退院した患者に関する因子を明らかにしたものである。</p> <p>本研究では患者を、退院後30日間自宅に居住した群(30日以内に自宅で死亡した患者を含む)と、それ以外の2群に分け、診療録および患者や介護者に行ったアンケートからデータを得て解析している。患者と介護者の自宅が近いこと、介護者が女性であることなどが、自宅への退院と関連していたことが示されている。</p> <p>本論文は自宅への退院と介護要因との関連について調べた初めての研究である。医療現場から入院患者の退院後の介護に関して網羅的に調査しており、非常に発展性のある研究である。今後、高齢の入院患者の退院支援等を行っていく場合など、非常に価値のある研究と思われる。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。研究方法や解析結果について詳しい説明を求めるが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また大学院博士課程を終えて学位を授与されるものと同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了した者と同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格 <input checked="" type="radio"/> 不合格 <input type="radio"/>	学力の確認の結果	合格 <input checked="" type="radio"/> 不合格 <input type="radio"/>
論文審査日	令和5年3月30日	学力の確認日	令和5年3月30日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和5年5月17日

報告番号 乙	第368号	氏名	池田宗平		
審査員	主査(自署)	山下佳雄			
	副査(自署)	阿部竜也			
	副査(自署)	寺本弦ス			
論文題名	<p>題名 Harboring Cnm-expressing Streptococcus mutans in the oral cavity relates to both deep and lobar cerebral microbleeds</p> <p>cnm 陽性 Streptococcus mutans の口腔内保有は深部・皮質下の脳微小出血と関連する</p> <p>雑誌名、巻(号のみの雑誌は号)、頁一頁、発行西暦年 European Journal of Neurology doi:10.1111/ene.15720.2023</p>				
論文審査結果の要旨	<p>微小脳出血は臨床的にはほぼ無症状といわれているが、認知機能障害との関連が報告されている。将来的には脳出血や脳梗塞を発症するリスクが高いため注意を要する。筆者らはこの微小出血との関連因子として、齧歯原因菌である S. mutans、その中でも cnm 遺伝子を有する株に注目し、その関連を検討した。</p> <p>脳卒中で入院した症例を後ろ向きに検討し、微小出血の数を T2 協調 MRI にて検出し、対象患者のデンタルプラターク中の cnm 陽性 S. mutans 菌の有無を調査した。検討項目として出血を部位別、さらには 10 個以上の微小出血患者との関連を検討した。その結果、cnm 陽性 S. mutans 保有者において全脳領域で 10 個以上の微小出血が確認された。特に、深部および皮質下領域において有意な相関を認めた。以上の結果から、筆者らは cnm 陽性 S. mutans が、加齢や高血圧などによって障害された脳血管の基底膜に接着し、炎症を惹起することで微小出血を発症すると考察している。</p> <p>本研究は、齧歯原因菌の 1 つである cnm 陽性 S. mutans が微小脳出血の発症メカニズムに関与することを示唆した意義ある論文であると判断する。また臨床的にも脳卒中患者の予後を改善するための新しいアプローチ法の開発につながる報告と考える。</p> <p>以上のことから、本論文の内容は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>				
学力の確認の結果の要旨	学力の確認は口頭試問により行った。各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行い、詳しい説明を求めたが、いずれについても適切な回答を得た。専攻学術に関して十分な学識を有しており、審査員合議の上、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。				
論文審査の結果	合格	不合格	学力の確認の結果	合格	不合格
論文審査日	令和5年5月17日		学力の確認日	令和5年5月17日	

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和6年1月9日

報告番号 乙	第369号	氏名	宮原 尚文		
審査員		主査(自署)	宮原 尚文		
		副査(自署)	木原 尚文		
		副査(自署)	吉木 俊入		
論文題名	<p>題名 Is the Preoperative Prognostic Nutritional Index a Useful Marker for the Decision to Perform Limited Resection in High-risk Patients With Stage I Non-small Cell Lung Cancer?</p> <p>雑誌名、巻(号のみの雑誌は号)、頁一頁、発行西暦年 Anticancer Research 43(8):3659-3664. 2023 Aug.</p>				
論文審査結果の要旨	<p>縮小手術を受けた高リスク非小細胞肺がん症例を対象とし、術前 Prognostic nutritional index (PNI) 評価が予後に関与するか検討した後視的研究である。</p> <p>I期 非小細胞肺がん 90例において、多変量解析 (Cox回帰分析) で overall survival (OS) 関連因子を解析した。</p> <p>グレード 2 以上の術後合併症、他病死共に、低 PNI 群で有意に多かった (6例 (16.6%) vs 7例 (12.9%) p=0.03, 14例 (50.0%) vs 11例 (25.0%) p=0.002)。</p> <p>多変量解析では、男性 HR 4.15 (95%CI : 1.49-11.4)、Brinkman index \geq 400 HR 4.61 (95%CI : 1.43-15.8)、術前低 PNI HR 4.8 (95%CI : 1.87-12.3)、病理学的 T 因子 \geq T1c HR 4.73 (95%CI : 1.92-11.6) が OS の独立した予後不良因子であった。</p> <p>術前 PNI 低値は、高リスク患者において術後合併症や予後に影響を与えるだけでなく、他病死との関連が示唆された。高リスク患者において縮小手術を行うか非外科的治療を行うかの適応を決める際に、PNI はその一助となり得る可能性がある。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>				
学力の確認の結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>術後予後因子解析に関し、種々質問を行い、特に臨床統計について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>				
論文審査の結果	合格	不格	学力の確認の結果	合格	不格
論文審査日	令和6年1月9日		学力の確認日	令和6年1月9日	

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和6年1月9日

報告番号 乙	第370号	氏名	稻富 千佳		
審査員		主査(自署)	江山 駿宏		
		副査(自署)	毛不 祐久		
		副査(自署)	平尾 伸三郎		
論文題名	<p>題名 Accuracy of the Enhanced Liver Fibrosis test, and combination of the Enhanced Liver Fibrosis and non-invasive tests for the diagnosis of advanced liver fibrosis in patients with non-alcoholic fatty liver disease</p> <p>雑誌名、巻(号のみの雑誌は号)、頁一頁、発行西暦年 <u>Hepatology research, volume 50, issue 6, 682-692, 2020</u></p>				
論文審査結果の要旨	<p>Enhanced Liver Fibrosis (ELF) スコアは肝線維化診断の指標として有用であることが報告されている。しかし、アジア人を対象とした本スコアの有用性に関する検討はない。そこで本研究では、肝生検で NAFLD と診断された合計 366 例(training set 200 例、validation set 166 例)を対象に、非アルコール性脂肪肝疾患(NAFLD)の肝線維化進行例における ELF の精度を評価するとともに、FibroScan による肝硬度測定(LSM)の診断精度と比較した。その結果、ELF の肝線維化進行例の診断における AUROC は 0.81 であり、training set では cut-off 値 9.34 で感度 90.4%、10.83 で特異度 90.6% であり、validation set では 9.34 で感度 89.8%、10.83 で特異度 85.5% であった。これは LSM の診断能と比較して有意差を認めなかったが、ELF と LSM を組み合わせることで特異度は 97.9% と向上し、陽性的中率も向上した。さらに、Fib-4 index と ELF を併用することで感度は 95.9% と向上した。以上の結果から、日本人 NAFLD においても ELF は肝線維化進行例の識別に有用であり、他の非侵襲的検査と組み合わせることで、診断能を向上させ得ることが明らかとなった。以上の結果は、NAFLD の肝線維化診断に新知見を加えるものであり、本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>				
学力の確認の結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>学位論文および参考論文に関して、種々質問を行い、特に肝線維化診断における ELF の位置付けを中心に詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>				
論文審査の結果	合格	不合格	学力の確認の結果	合格	不合格
論文審査日	令和6年1月9日		学力の確認日	令和6年1月9日	

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和 6 年 1 月 4 日

報告番号 乙	第371号	氏名	八板 静香		
審査員		主査(自署)	八板 静香		
		副査(自署)	小糸 博之		
		副査(自署)	浜見 豊子		
論文題名	<p>題名 A Simple and Accurate Model for Predicting Fall Injuries in Hospitalized Patients: Insights from a Retrospective Observational Study in Japan</p> <p>雑誌名, 卷(号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Medical Science Monitor, 29, e941252, 2023</p>				
論文審査結果の要旨	<p>本論文は入院時に収集可能な 6 つの因子による簡便な転倒傷害予測モデルを開発したものであり、内部検証による良好な識別能も確認されている。6 年間の対象期間に急性期病院に入院した全成人患者を対象とした単施設後向き観察研究である。入院時に評価可能な変数を、転倒による傷害有りの患者群と転倒自体や転倒による傷害無の患者群の 2 群間比較で多変量解析によって有意差のあった変数を用い簡便な転倒障害予測モデルを構築している。結果は、17062 例中 646 例(3.8%)に転倒を認め、内 113 例(0.7%)に損傷を認めた。多変量解析の結果、入院中の転倒による傷害と有意に関連した変数は、年齢($P=0.001$)、性別($P=0.001$)、救急搬送なし($P<0.001$)、紹介状あり($P=0.041$)、転倒歴あり($P=0.012$)、寝たきり度(すべての分類で $P<0.001$)の 6 因子であった。これらの因子を用いて構築した予測モデルの同集団における曲線下面積は 0.794、Shrinkage coefficient は 0.955 で。以上の結果は入院患者の入院時の転倒予測に関して新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>				
学力の確認の結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>論文内容に関し、種々質問を行い、特に入院時の転倒予測について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>				
論文審査の結果	合格	不合格	学力の確認の結果	合格	不合格
論文審査日	令和 6 年 1 月 4 日		学力の確認日	令和 6 年 1 月 4 日	

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和6年1月4日

報告番号 乙	第372号	氏名	井手 俊宏		
審査員		主査(自署)	阿部 竜也		
		副査(自署)	入江 祐之		
		副査(自署)	植田 陽		
論文題名	<p>題名 Associations for Progression of Cerebral Small Vessel Disease Burden in Healthy Adults: The Kashima Scan Study 雑誌名、巻(号のみの雑誌は号)、頁-頁、発行西暦年 Hypertens Res. doi: 10.1038/s41440-023-01419-3. Epub ahead of print. PMID: 37673959. 2023.</p>				
論文審査 結果の要旨	<p>本研究では、中年成人を中心とした神経学的に健康なコホート($n=665$、平均 57.7 歳)を対象に、血管危険因子と脳小血管病(SVD)の進展との関連を縦断的に検討した。 [方法] 脳ドック受診時のベースライン MRI と、ベースラインから少なくとも 1 年以降のフォローアップ MRI の両方を有する被験者を対象とし、ラクナ、微小出血、白質病変、血管周囲腔拡大を含む SVD の特徴の有無を合計し、total SVD score を算出した(0~4)。SVD の進展はベースラインと比較して追跡調査時に 1 ポイント以上増加した場合と定義した。主要解析として多変量ロジスティック回帰分析を行い、ベースライン時の臨床所見と SVD 進展との関連を検討した。[結果] 追跡期間の中央値は 7.3 年で、154 例(23.2%) で SVD の進展が観察された。SVD の進展は年齢(10 歳増加あたり、OR: 2.08、95%CI: 1.62-2.67)、高血圧(OR: 1.55、95%CI: 1.05-2.29)、収縮期血圧(標準偏差 [SD] 増加あたり、OR: 1.27、95%CI: 1.04-1.54)、拡張期血圧(SD 増加あたり、OR: 1.23、95%CI: 1.01-1.50)、平均動脈圧(SD 増加あたり、OR: 1.27、95%CI: 1.04-1.55) と関連していた。[考察・結論] 年齢と高血圧は中年期以降の脳小血管負荷の進行に重要な役割を果たしていることを見出し、報告した。</p>				
学力の確認の 結果の要旨	<p>脳卒中学に関し、種々質問を行い、特に微小血管病について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。 また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であると判断した。 よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>				
論文審査の結果	合格	不格	学力の確認の結果	合格	不格
論文審査日	令和6年1月4日		学力の確認日	令和6年1月4日	